

雌阿寒岳

1 概況

中旬から下旬にかけて、ポンマチネシリ火口直下の浅いところが震源と推定される微小な地震が増加しました。この地震活動に伴い噴煙などの表面現象に変化はありませんでした。

2 地震活動の状況

13 日から、ポンマチネシリ火口直下の浅いところが震源と推定される微小な地震が増加しました。日回数の最大は 14 日の 69 回で、比較的規模の大きな地震もこの日に集中して発生しました。日回数が 50 回を超えたのは昨年 3 月 29 日(139 回)以来です。地震のやや多い状態は下旬まで続きました。

また、8 日には雌阿寒岳の南南西 4~5km 付近(徹別岳「てしべつだけ」周辺)を震源とする地震が増加しました。このうち、最大の地震は 06 時 35 分頃に発生した M3.1 で、気象台の聞き取り調査によると、阿寒町の飽別(あくべつ)や徹別で震度 1~2 程度の揺れを感じました。徹別岳周辺では時々地震活動が活発化しますが、雌阿寒岳の火山活動には直接影響しないと考えています。

月別地震・微動回数(B点)

2002~2003年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
地震回数	11	20	32	25	34	21	20	39	204	83	223	375
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

3 地殻変動の状況

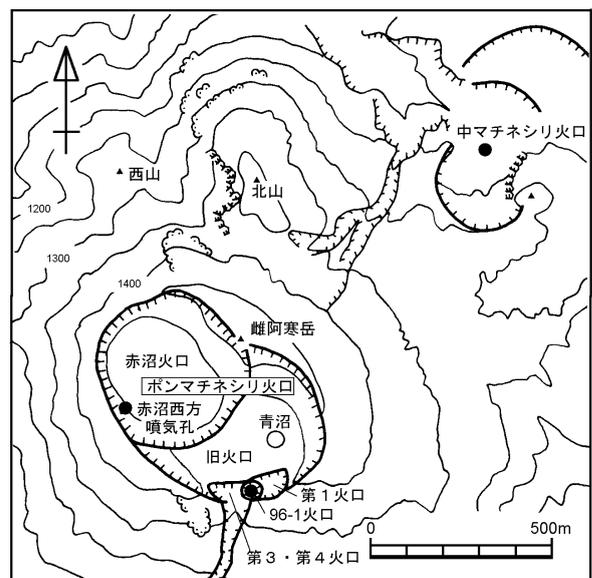
G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。昨年 12 月頃から の基線長に見られていた伸びの変化(図中 で示した部分、凍上と推定)は概ね元の状態に戻りました。

4 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は火口上 100~200m 程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

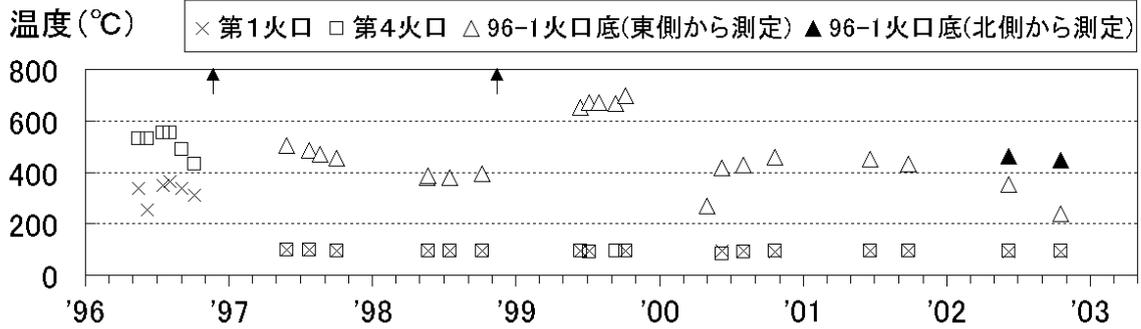
5 上空からの観測結果

4 月 24 日に北海道消防防災ヘリコプターの協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口から白色の噴煙が上がっていましたが、噴煙活動には大きな変化はなく、地熱域が広がるような傾向も認められませんでした。

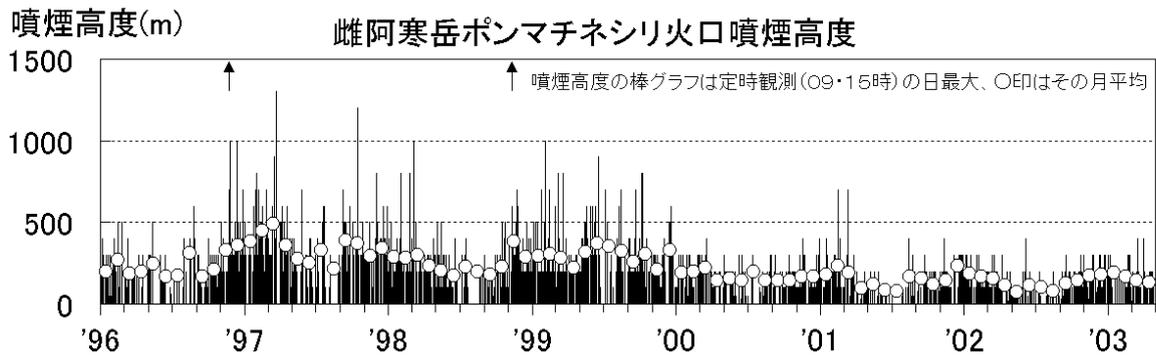


雌阿寒岳火口周辺図

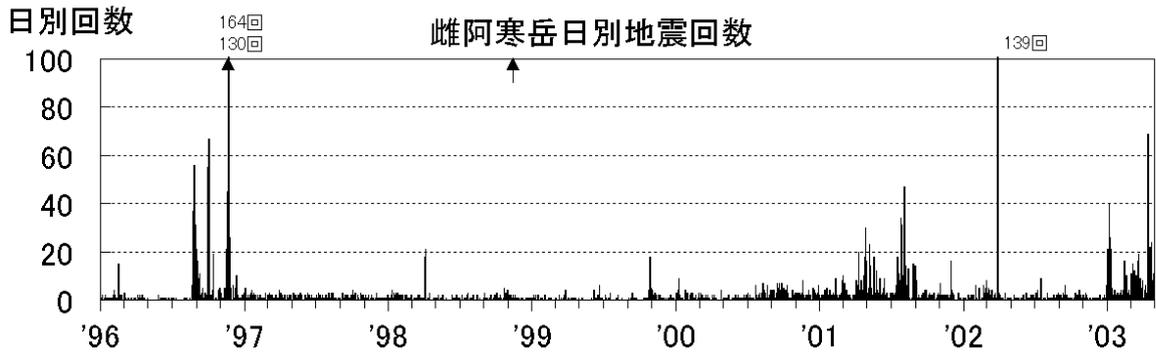
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



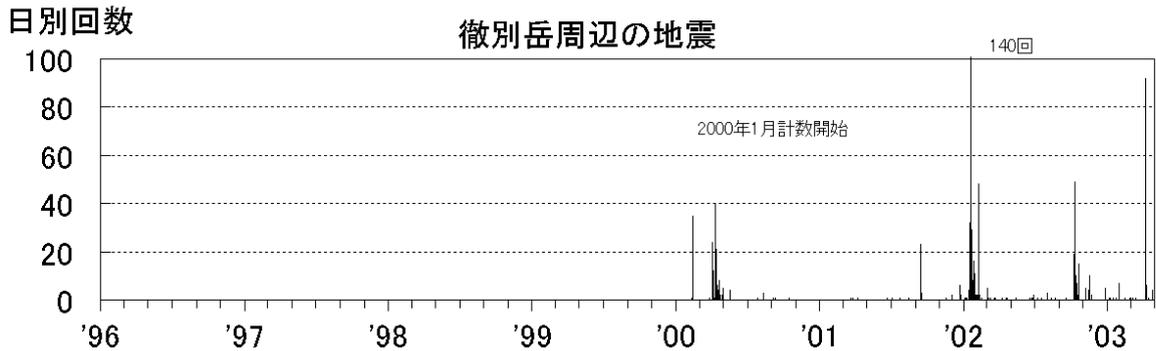
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口噴煙高度



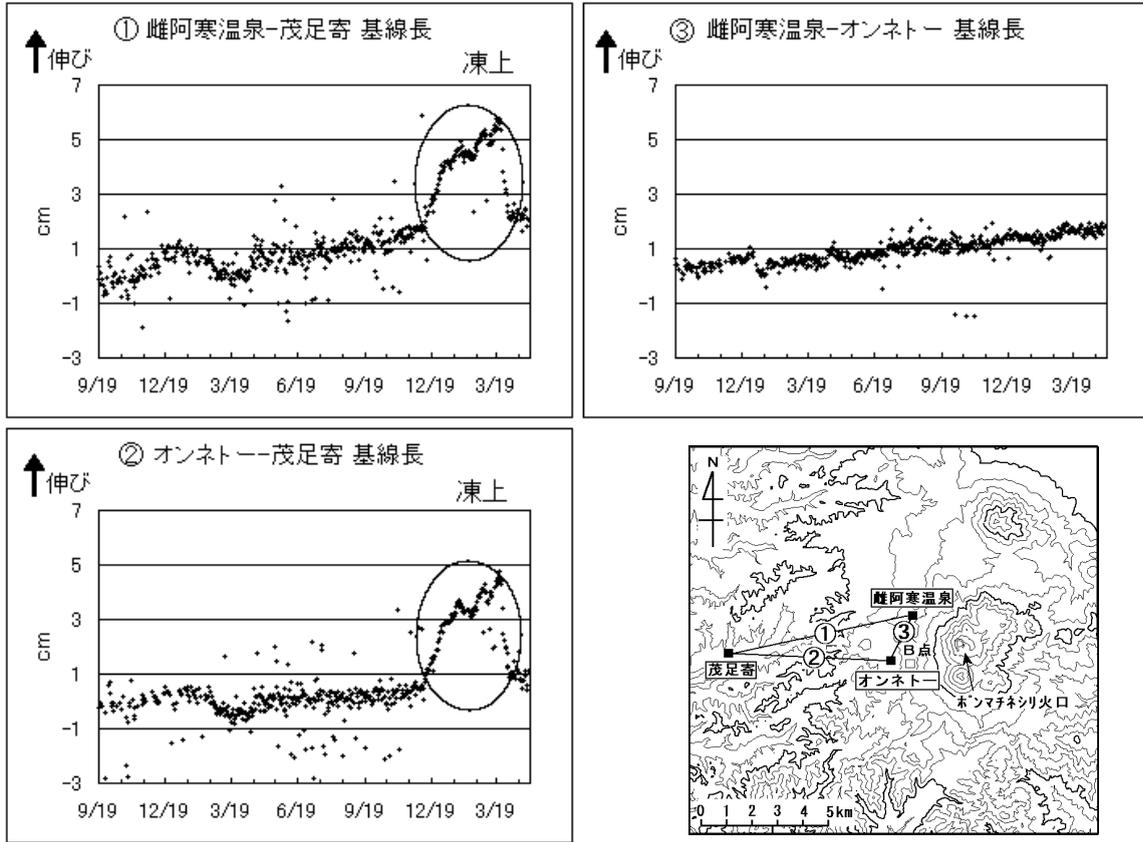
雌阿寒岳日別地震回数



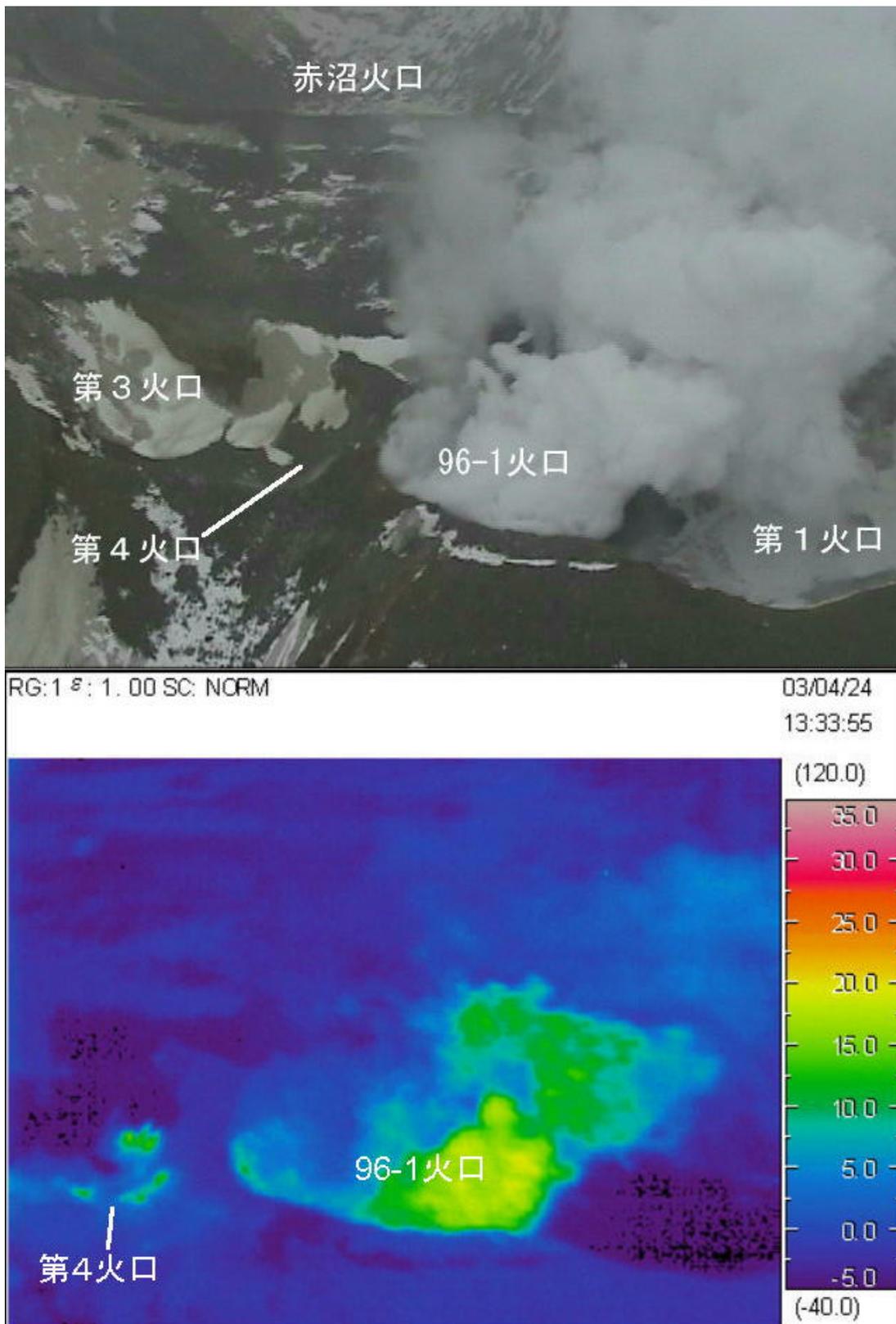
徹別岳周辺の地震



雌阿寒岳火山活動経過図(日別、1996年1月1日~2003年4月30日) 印は噴火



雌阿寒岳基線長変化 (2001 年 9 月 19 日 ~ 2003 年 4 月 30 日)



南東側上空から見たポンマチネシリ 96-1 火口周辺の赤外熱映像
(2003 年 4 月 24 日 13 時 33 分、天気くもり：北海道消防防災ヘリコプターから撮影)

96-1 火口の噴煙は 20 前後の黄色で表現されていますが、より高温の火口底は見えていません。第 4 火口の周辺には地熱域が緑色で表現されています。